

南アフリカの金利引き上げについて

2016年1月29日

南アフリカ準備銀行(中央銀行)は1月28日(現地時間)、政策金利を0.50%引き上げて6.75%とすることを決定しました。同幅の利上げは2014年1月以来となります。事前のエコノミスト予想でも利上げ予想が多かったことから南アフリカ・ランドは強含みに推移していました。発表後も利上げは概定路線との評価で、為替レートは引き続き強含みとなっています。

《利上げの背景について》

今回の利上げ決定の背景として、以下のことが考えられます。

昨年来、南アフリカでは希少金属・貴金属等の商品価格の下落が長期化する中で経済回復が遅れ、インフレ圧力の高まりや自国通貨安といった経済問題の深刻化への対応に、政府・中央銀行はともに苦慮してきました。

為替レートは主要輸出品であるプラチナ等の商品価格下落の影響から2011年後半以降、対ドルでほぼ一本調子で下落トレンドにあり、今年に入ってからも最安値を更新しています。昨年11月に米国に先行して実施した政策金利の引き上げも、自国通貨の下落には歯止めをかけるに至りませんでした。

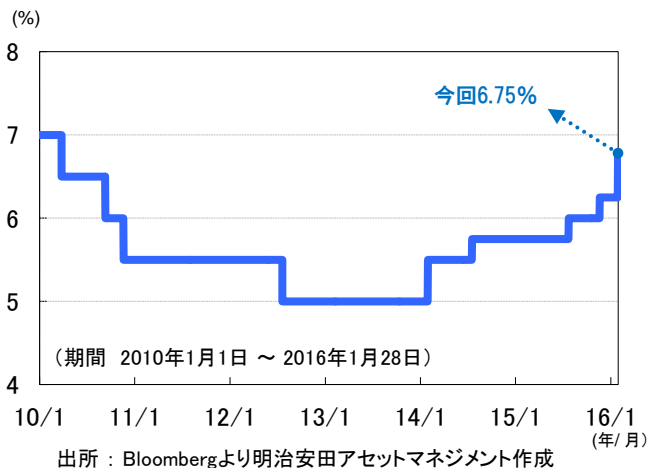
金融政策委員会はインフレについて、食料価格の上昇や自国通貨安による輸入品物価の上昇の影響を受けているとみています。昨年11月の利上げに続き、景気減速下で利上げを選択したことから、中央銀行はインフレ対策を最優先としていると考えられます。また、通常よりも大幅な利上げに踏み切ったのは、インフレと自国通貨安のスパイラルを押しとどめる必要があるためと考えられます。

《今後の為替見通しについて》

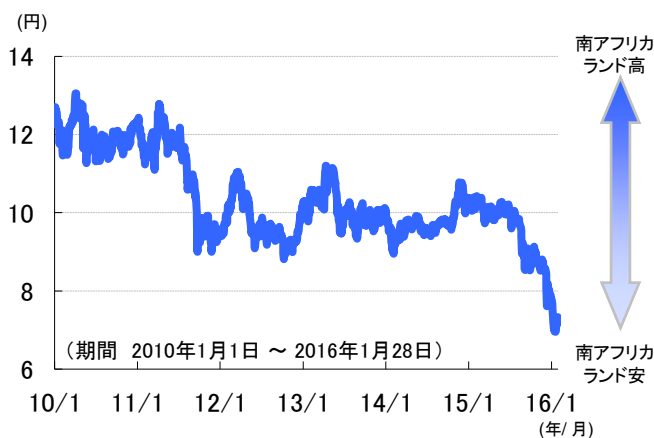
足元の景気指標では、製造業PMI(購買担当者景気指数)が景況判断の節目とされる50を下回って推移し、企業景況感の下がり続けています。製造業生産は前月比、前年比ともに市場予想よりも減少幅が大きくなりました。一方、小売売上高は前月比で市場予想を上回る増加となりました。

中央銀行は金融政策について今後とも、景気減速に一定の配慮をしつつも、当面はインフレ対策を重視した金融政策を行うとみられます。南アフリカ・ランドは、利上げによる景気の下押し圧力に加えて、天候が足元のインフレのかく乱要因となっていることもあり、当面は不安定な展開になるとみられます。

《南アフリカの政策金利の推移》



《南アフリカ・ランドの対円推移》



- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。